

北海道ヒストリア

2026.06.01

# 歴史文化 # 十勝岳 # 上富良野町 # 上富良野町郷土館 # 上富良野町開拓記念館 # 美瑛町 # 十勝岳ジオパーク

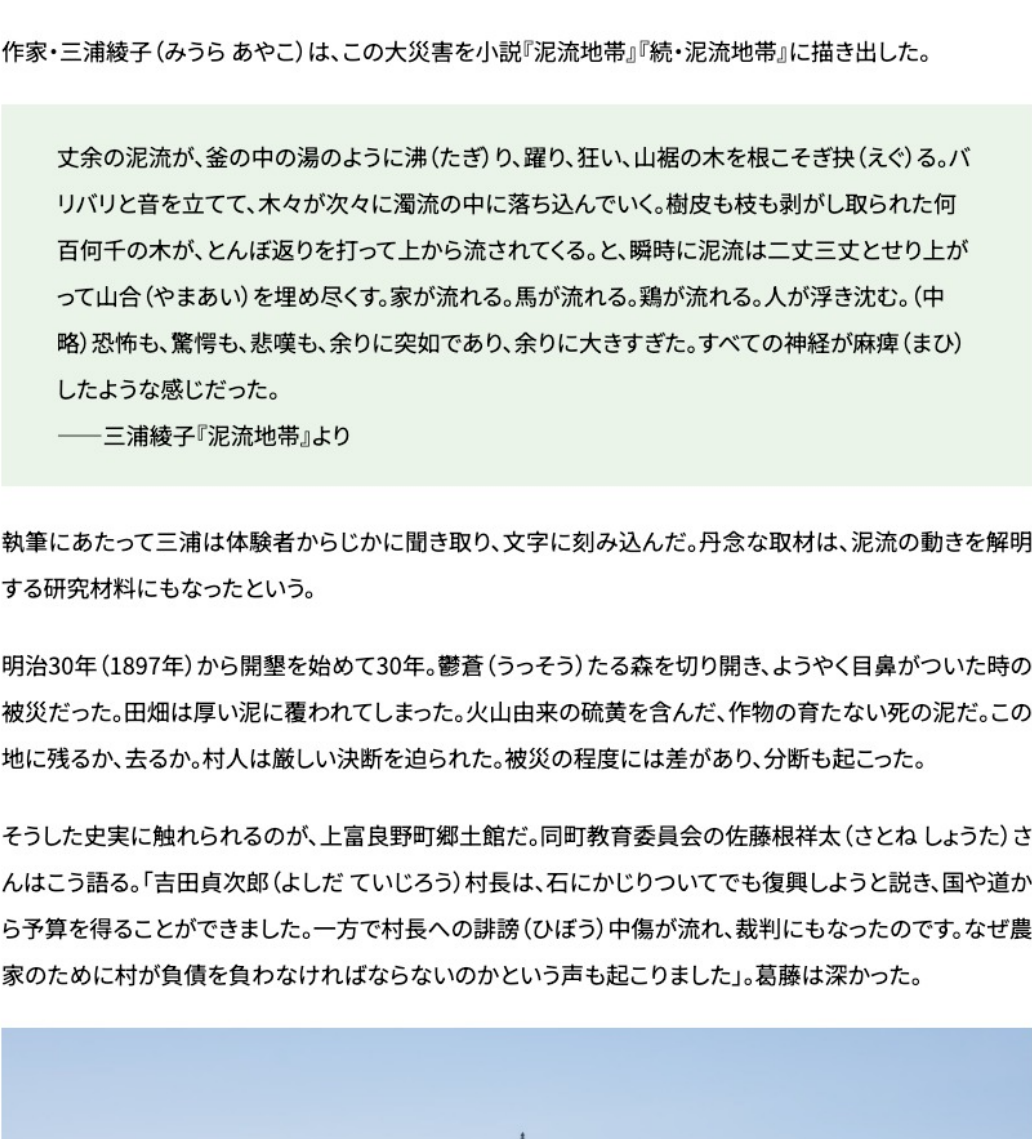
## 十勝岳と生きる ―泥流からの復興100年【前編】

波打つ丘、作物の種類によって色分けされたパッチワークのような畑…。美しい田園風景から想像するのは難しいが、上富良野(かみふらの)町と美瑛(びえい)町は、100年前に起きた十勝岳(とちだけ)噴火による泥流(でいりゅう)の被災地である。苦難を乗り越えて復興した地に、ラベンダーが咲き、「白金(しろがね)青い池」が輝く。悠久の歴史の中で絡み合う火山と人の物語をたどってみよう。

文:北室かず子/写真:田淵立幸

### 残るか、去るか

大正15年(1926年)5月24日、十勝岳が噴火した。爆発の衝撃が山体崩壊を起こし、熱い崩落物と熱水に解かされた雪が、火山灰や土砂、木々を抱え込んで流れ下った。泥流である。上富良野村(当時)、美瑛村(同)合わせて死者・行方不明者144人にも上った。



泥流の流路となった上富良野村から人力で泥流を引き上げ、泥流は時速60kmの速度で流れ下り、2mの深さに泥が堆積したところもあった。写真提供:上富良野町教育委員会

作家・三浦綾子(みうら あやこ)は、この大災害を小説『泥流地帯』『続・泥流地帯』に描き出した。

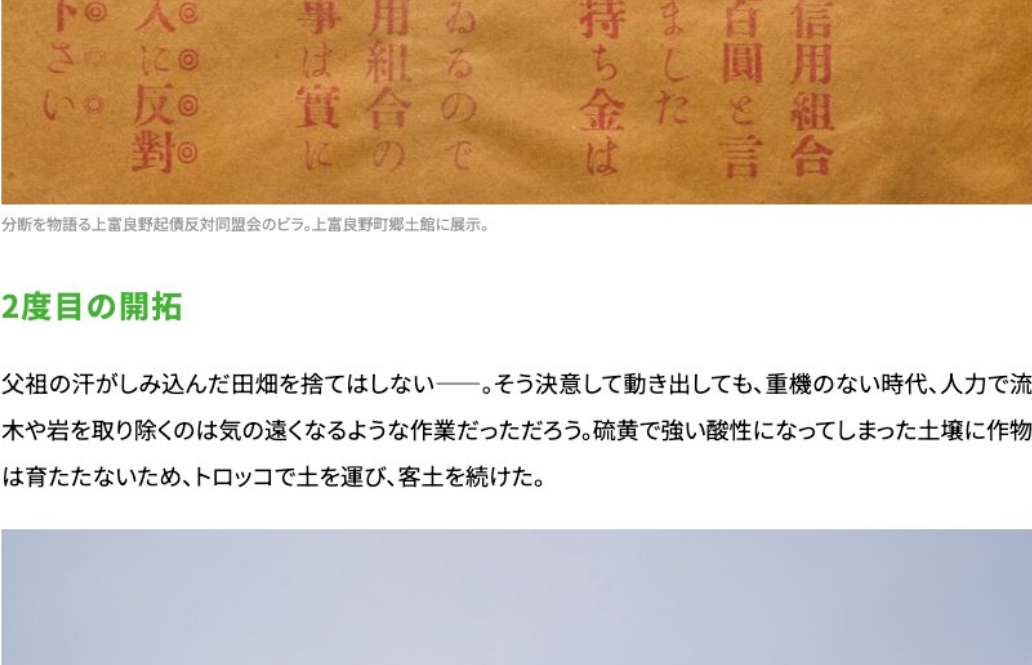
又余の泥流が、釜の中の湯のように沸(たぎ)り、躍り、狂い、山根の木を根こそぎ抉(えく)る。バリバリと音を立てて、木々が次々に濁流の中に落ち込んでいく。樹皮も枝も剥がし取られた何百何千の木が、とんぼ返りを打って上から流されてくる。と、瞬時に泥流は二丈三丈と盛り上がり、山合(やまあい)を埋め尽くす。家が流れる。馬が流れる。鶏が流れる。人が浮き沈む。(中略)恐怖も、驚愕も、悲嘆も、余りに突如であり、余りに大きすぎた。すべての神経が麻痺(まひ)したような感じだった。

―三浦綾子『泥流地帯』より

執筆にあたって三浦は体験者からじかに聞き取り、文字に刻み込んだ。丹念な取材は、泥流の動きを解明する研究材料にもなったという。

明治30年(1897年)から開墾を始めて30年。鬱蒼(うっそう)たる森を切り開き、ようやく目鼻がついた時の被災だった。田畑は厚い泥に覆われてしまった。火山由来の硫黄を含んだ、作物の育たない死の泥だ。この地に残るか、去るか。村人は厳しい決断を迫られた。被災の程度には差があり、分断も起こった。

そうした史実に触られるのが、上富良野町郷土館だ。町町教育委員会の佐藤根祥太(さとうねしやうた)さんはこう語る。「吉田貞次郎(よしたていじろう)村長は、石にかけつりてでも復興しようと思き、国や道から予算を得ることができました。一方で村長への謝辞(ひぼう)中傷(ちゆうじやう)が流れ、裁判にもなつたのです。なぜ農家のために村が負債を負わなければならないという声も起こりました」。葛藤(かぶとん)は深かった。



モダンな大正建築の旧上富良野村役所をモデルに、昭和53年(1978年)に開館した上富良野町郷土館。十勝岳ジオパークの拠点施設でもある。



泥流を免れた上富良野村に、上富良野町長(当時)吉田貞次郎(よしたていじろう)が、町民(ちやうみん)と話し合っている様子。町長(ちやうりやう)佐藤根祥太(さとうねしやうた)、町教育委員長(ちやういくりやうりやうじやうりやう)佐藤根祥太(さとうねしやうた)、町長(ちやうりやう)佐藤根祥太(さとうねしやうた)、町教育委員長(ちやういくりやうりやう)佐藤根祥太(さとうねしやうた)、町長(ちやうりやう)佐藤根祥太(さとうねしやうた)、町教育委員長(ちやういくりやうりやう)佐藤根祥太(さとうねしやうた)。



分断を物語る上富良野村開拓記念館のつら、上富良野町郷土館に展示。

### 2度目の開拓

父祖の汗がしみ込んだ田畑を捨ててはしない―。そう決意して動き出しても、重機のない時代、人力で流水や岩を取り除くのは気の遠くなるような作業だった。硫黄で強い酸性になってしまった土壌に作物は育たないため、トロッコで土を運び、客土を積った。

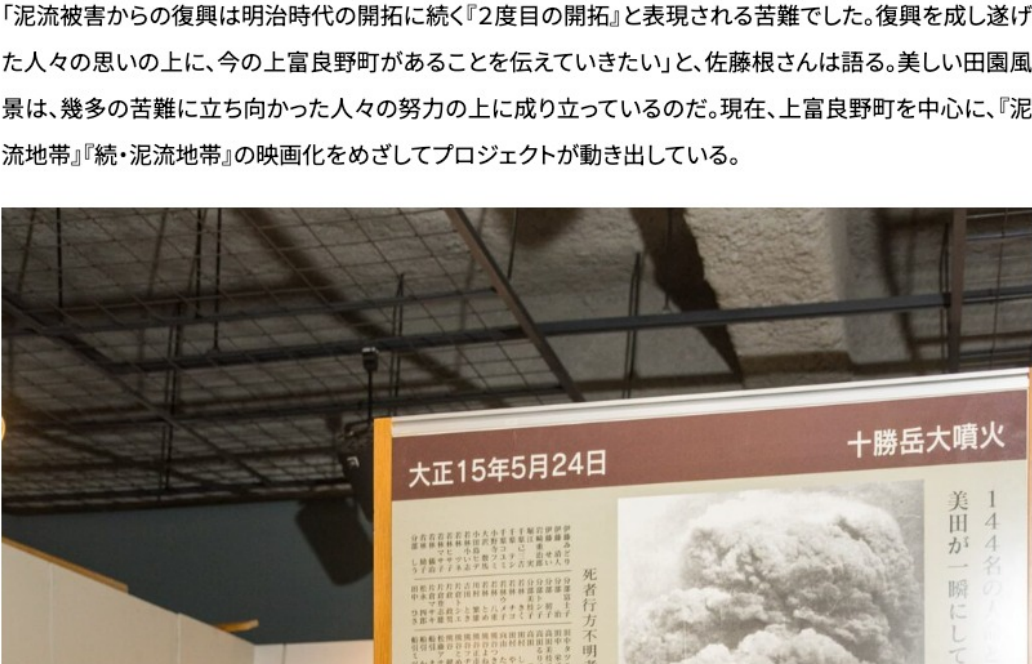


山から運来(ゆんらい)された巨岩(きょくわん)は十勝岳開拓記念館として保存され、定流の威力を証言している。



この石の裏にも歴史を伝えるコメントが記されている。

佐藤根祥太(さとうねしやうた)さんいわく「吉田村長は責任感とリーダーシップにあふれた高潔な方だったのだからと思う。泥流に飲み込まれたのは日新(にっしん)地区や草分(くさわけ)地区で、地名からもわかるように開拓の最初期にできた集落でした。開拓魂(かいたくこん)を持っている人たちの土地だからこそ、復興への思いはなお強かったと思います」。村長の住宅は草分地区から移築(いせき)され、上富良野町開拓記念館になっている。



吉田村長は定流で喉(のど)をくじき、息(いき)は絶命(せつめい)に瀕(ひん)まれて移築(いせき)された。上富良野町開拓記念館として公開されている。



定流(ていりゅう)で流れた木、上富良野町開拓記念館にて。



上富良野町開拓記念館の前に建立された吉田村長の胸像。

「泥流被害からの復興は明治時代の開拓に続く2度目の開拓」と表現される苦難でも、復興を成し遂げた人々の思いの上に、今の上富良野町があることを伝えていきたい」と、佐藤根祥太(さとうねしやうた)さんは語る。美しい田園風景は、幾多の苦難に立ち向かった人々の努力の上に成り立っているのだ。現在、上富良野町を中心に、『泥流地帯』『続・泥流地帯』の映画化をめざしてプロジェクトが動き出している。



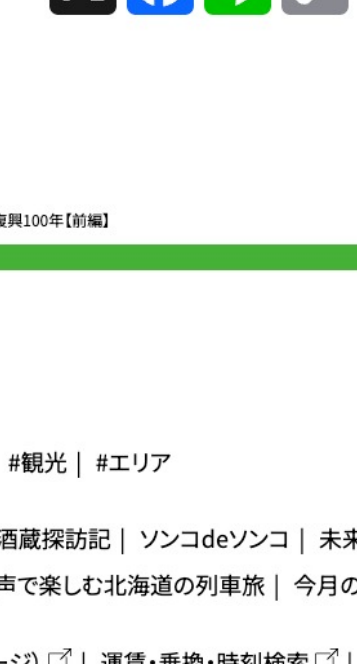
地域の歴史を伝え、防災の取り組みを促(すす)めることが任務(にんむ)を帯びる職員(しやくいん)さん。

こうした歴史を背負(せお)う地域が、令和4年(2022年)、十勝岳ジオパークに認定された。火山活動が降りなす自然環境(ぜんげんげん)を保全(ほぜん)し、魅力を発信(せふしん)し、火山と共生(きやうせい)する地域づくりを進めている。その柱(はしら)の一つ、ジオツアーでは十勝岳ジオパーク推進協議会(しゆんけつぐわい)が認定したガイドが多彩(たさい)なコースを案内してくれる。



十勝岳の望(ぼん)み台(たい)から眺(なが)む。風(かぜ)で噴(ふ)火(か)の痕跡(こんせき)を見るジオツアー。他に、火山(かざん)と共生(きやうせい)する動物(どうぶつ)を森(もり)に訪(たず)ねたり、小浜(こはま)泥流(でいりゅう)地帯(ちたい)・定流(ていりゅう)地帯(ちたい)の難(がた)を越(こ)えるなど多彩(たさい)なコースがある。写真(しやうしん)は1月下旬(しゅうごふ)に写真(しやうしん)提供(ていきやう)した十勝(しゆん)岳(たけ)ジオパーク推進協議会(しゆんけつぐわい)。

十勝岳ジオパーク推進協議会(しゆんけつぐわい)事務局長(じやくりやうじやう)の長野(なが)野(の)さん(ながのの)さんは、「十勝岳(しゆんけつたけ)噴火(ふんか)はたいへん被害(ひがい)をもたらしましたが、そもそも丘(かみ)の風景(ふうけい)自体(じたい)、火山(かざん)が生(な)んだものなのです。十勝岳(しゆんけつたけ)ができるは昔(むかし)の大規模(だいきぼり)噴火(ふんか)による火砕流(かさいりゅう)が堆積(たいせき)し、それが雨(あめ)で浸食(しんじく)を受けたことで、波打(なみ)つような丘(かみ)の地形(ちやうけい)が生まれたのです」と言う。



国内外(こくわい)から来(き)訪(ほう)した約(やく)200人(にん)以上の訪(たず)ね客(きやく)を収(と)め、ジオパークの魅力を発信(せふしん)する長野(なが)野(の)さん。

苦難(くるがた)をもたらした火山(かざん)が風景(ふうけい)の生(な)みの親(おや)とは、どう思う(おもう)ことだろう。【中編(ちゆうへん)】で、その謎(めい)をひも解(ひもと)いてみよう。

## INFORMATION

### 上富良野町郷土館

住所: 上富良野町富町1丁目3-30 [Google Map](#)

電話番号: 0167-45-3158(電話番号は上富良野町郷土館、開拓記念館、図書館、公民館に共通)

開館時間: 9:00~16:00

休館日: 4月~10月は月曜(げつやう)(祝日の場合は開館)、11月~3月は月曜(げつやう)~金曜(きんやう)(土曜(どよう)・日曜(にちよう)・祝日(しゆき)のみ開館)

入館料: 無料

アクセス: 上富良野駅から徒歩約9分

関連リンク: <https://www.town.kamifurano.hokkaido.jp/index.php?id=1107>

※情報は取材時のものです。最新情報は各公式サイト等をご確認ください。

## INFORMATION

### 上富良野町開拓記念館

住所: 上富良野町西3線北28号 [Google Map](#)

電話番号: 0167-45-3158(電話番号は上富良野町開拓記念館、郷土館、図書館、公民館に共通)

開館時間: 9:00~16:00

休館日: 5月、6月、9月、10月は月曜(げつやう)~金曜(きんやう)休館(土曜(どよう)・日曜(にちよう)・祝日(しゆき)のみ開館)、7月、8月は月曜(げつやう)休館、11月~4月は冬期(ふゆ)休館

入館料: 無料

アクセス: 上富良野駅から徒歩約30分

関連リンク: <https://www.town.kamifurano.hokkaido.jp/index.php?id=1114>

※情報は取材時のものです。最新情報は各公式サイト等をご確認ください。

この記事の《中編》を読む 2026.06.22公開予定

この記事の《後編》を読む 2026.07.13公開予定

北海道ヒストリア 記事一覧はこちら

### この記事シェアする

